

外 国 語

『英語（リーディング）』

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

令和7年度共通テスト（以下「本テスト」という。）の「英語（リーディング）」の受験者は、本試験と追・再試験を合わせて454,301人で、受験者全体の約98.3%に当たる。

本テストの問題作成方針では、平成30年告示の学習指導要領を踏まえて、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する力を「リーディング」形式の問題を通して測るとともに、それらの力を問うことを通して、コミュニケーションを支える基盤となる語彙や表現、文法等に関する知識や技能についても測り、総合的な英語力を評価することをねらいとしている。

これらのことを踏まえ、追・再試験の問題について、報告書（本試験）21ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内 容・範 囲

本テストは、受験者が高等学校での外国語の授業（「英語コミュニケーションⅠ」、「英語コミュニケーションⅡ」、「論理・表現Ⅰ」等）で学ぶ内容・範囲を網羅しており、「リーディング」形式を通して高等学校段階で身に付けた総合的な英語力を測るものとしておおむね適切であった。日常的な話題から科学的な話題まで幅広く取り上げられており、場面や状況の設定も受験者が想像しやすいよう工夫されていて、実際のコミュニケーションにおいて英語を運用する力を測ることができるように配慮されている。学習指導要領で求められる、「主体的・対話的で深い学び」を経験してきた受験者が、高等学校段階で学習した語彙や文法の正しい知識を基に、コミュニケーションの目的に応じて英文を読み、思考力・判断力・表現力等を発揮しながら概要や要点を捉えたり、情報を活用して推測したり再構築したりする内容となっている。

第1問 商品の特徴が述べられた資料から、目的に応じて必要な情報を適切に読み取る力が問われている。

第2問 調査結果がまとめられた資料を読み、情報を正確に読み取る力や、事実と意見を区別して読み取る力が問われている。

第3問 空想的な内容の物語を読み、あらすじを正確に読み取る力や、登場人物の心情を適切に読み取る力が問われている。

第4問 作文の原稿とそれに対する教師のコメントを読み、結束性や一貫性を高めるよう推敲する力が問われている。

第5問 表を含む複数の資料を読み、要点を適切に読み取る力や、得られた情報を基に適切に意思決定する力が問われている。

第6問 身近な内容の物語を読み、場面の前後関係や登場人物の特徴や関係性を正確に読み取る力、また、具体的な情報を抽象化する力が問われている。

第7問 科学的な文章を読み、情報を正確に読み取り、要点を適切にメモにまとめる力が問われて

いる。

第8問 対立点を含む複数の意見を読み、それらの共通点を正確に読み取る力や抽象化する力が問われている。また、図表を含む複数の資料から読み取った内容に基づき、自分の考えを作文の構想メモとしてまとめる力が問われている。

3 分量・程度

問題作成方針に示された、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する力」を評価する試験となるよう、個々の大問では、出題範囲とされている「英語コミュニケーションⅠ」、「英語コミュニケーションⅡ」、「論理・表現Ⅰ」の教科書内で用いられる英文の分量・難易度に準じた問題文を扱っており、適切である。正確な文法知識が問われるものや、具体的な情報の抽象化が要求されるような難易度が高い設問もあるが、様々な難易度の問題が、全体的にバランス良く配置されている。

第1問 約200語で3つの設問。広告を読み取る問題として分量は適切である。問題文は読みやすく、第1問としては難易度も標準的である。資料にある表現をパラフレーズする必要がある設問や、具体的な記述から抽象化された選択肢を選ぶ設問が含まれている。

第2問 約310語で4つの設問。夫婦の家事や育児の分担について書かれたオンライン記事である。一般的に話題として取り上げられることの多い題材のため、問2は受験者が背景知識から正解を類推しやすかった可能性がある。問3はThe answer most favoured by …の一文を受験者が理解できず正答できなかった可能性があるが、英文の正確な理解を求める設問であった。全体の難易度としては適切であった。

第3問 約350語で3つの設問。物語を読んであらすじを読み取る問題で、全体の難易度としては適切であった。分量及び設問数とのバランスは適切である。問2の物語中に起きた出来事を時系列に並べる設問はやや難易度が高かったが良問であった。

第4問 約300語で4つの設問。英文の難易度や分量は適切である。文と文のつながりや論理的な文章構成を踏まえながら解答する必要がある。新しい形式の出題であったが、受験者の英語力を適切に測る良問であった。

第5問 約530語で5つの設問。資料が3ページにわたっており、受験者は情報を整理しながら丁寧に読むことを求められた。実際に英語を使用する過程が問題に落とし込まれている良問であり、分量・難易度は適切であった。問3は選択肢と表を注意深く読むことを求められる設問だった。

第6問 約720語で4つの設問。英文の量・難易度共に標準的で、設問数とのバランスも適切である。問2では、④の英語を理解するのに高い力が求められたと考えられる。問3では、登場人物の性格を本文から読み取る力が求められた。

第7問 約680語で5つの設問。記事の英文と発表の要点で3ページ、設問で2ページにわたっているが、英文の分量・難易度共に適切である。問1では、記事で読んだ具体的な情報を抽象化して捉える必要があった。問2は本文の情報を図表化する問題であったが、背景知識のある受験者にとっては易しかったと思われる。問4は、正確で注意深い読みが問われる良問であった。

第8問 約740語で5つの設問。トピックに関する5つの異なる視点及びグラフを含む2つの資料があり、分量は多いが、作文を書くステップごとにテキストと設問が配置されている。設問も作文を書くというタスクに沿ったものになっており、適切な設問、難易度であった。問3は、作文を書くに当たり、共通の主張を持つ人物を選んだ上で、そのそれぞれの主張の抽象化が求められ、難易度は高いが良問であった。

4 表現・形式

学習指導要領に示されている外国語科の目標、及び問題作成方針を踏まえ、英語でのコミュニケーションを行う明確な目的や場面、状況がおおむね適切に設定されている。設問は英文の種類に応じて様々な形式で出題されている。設問ごとの配点は適切である。イギリス英語の表記、表現を含めるなど、様々なテキストから出題され英語の多様性にも配慮されている。図や表は、本文の中で効果的に使用され、その量もおおむね適切である。

第1問 文具店の広告を読んでいるという設定である。広告のデザイン、イラストは内容理解を助けるものとなっており効果的であった。それぞれの特徴が平易ながらも自然な英語で表現されている。問2の設問は受験者に広告中の具体的表現を抽象化することを求めており良問であった。

第2問 レポートを書くために日本在住のイギリス人留学生が書いたオンラインの記事を読んでいるという設定である。場面設定は適切だが、資料の内容はgender biasを助長する可能性がある。第1パラグラフのFor example, my father …の文について、butでつなぐことが不自然に感じられる。年月日の表記や、favour, rubbishなどイギリス英語の表現が使用されている。様々な家事を表すイラストが用いられ受験者の理解を助けているが、洗濯を加えるなどもう少し工夫できたかもしれない。問2は背景知識があれば受験者は解答できた可能性がある。

第3問 イギリス留学中に、興味のある物語を授業で共有するために英文を読んでいるという設定である。物語を読み、読み取った情報を基に、そのあらすじを自分の言葉で発表するという設定は高等学校での言語活動の参考となる。問3はthe end of the storyのstoryが資料中において指す範囲を正しく理解できなかった可能性がある。

第4問 英語の授業で、学校において望む変化について書いた作文を、教師からの指摘を基に修正をするという設定で、高等学校での学習過程を意識したものである。全体を踏まえて表題を考えたり、文と文のつながりを考えたりと、概要把握力や論理的思考力を問う良問である。問2はBy …で始まる選択肢から選ぶものだが、作文の指導の参考にもなる設問である。問3は受験者にありがちな誤りから出題されており、指導に生かすことができる。問4は自分の主張を最後にまとめ、文章としての一貫性を問う設問で良問である。

第5問 アメリカで交換留学中に地域の祭りの実行委員としてタイプの異なる資料を参照しながら会議資料を作成しているという設定である。目的達成のために調査結果や前年のコメントを踏まえた改善策を問うなど、資料の要点を捉えた適切な設問であった。問1で不正解の③を選んだ受験者は、探究でよく話題に上がるrevive local communitiesという内容に惑わされた可能性がある。問3は②が最も人気のある“event”ではなく“workshop”であることに気付く必要があり、注意深い読みが求められた。

第6問 大学の英語の授業の課題として、物語を読みワークシートを完成させるという設定である。資料を読んで適切なイラストを選択したり登場人物の感情の移り変わりをたどったりするなど、おおむね適切な設問である。ただ、英文で書かれているのに日本国内と思われる場面設定は不自然に感じる。資料中の、問1に関わるDraw a picture that best shows …という指示のbestはワークシートの指示としては不自然だと感じられた。

第7問 理科の授業で発表をするために硬水と軟水について書かれた英文を読み、その概要を作成するという設定である。身近な水を扱っており、資料の難易度は適切である。問2の表は発表としては必要かもしれないが、資料なしでも解答がある程度想像できる。複数のスキルの統合的な力を問うという点からは、図表を言葉で表すという問いがあっても良いかもしれない。全体としては注意深い読みや読み取った内容の抽象化など多様な読みが求められる良問であった。

第8問 動物園に関する作文を作成する過程を扱った問いである。問3ではAyaとKenyattaの意見に解答の根拠を求めているが、どちらも最後に補足的に述べられた部分が根拠であるため主要な部分を読んだ上で解答につながるような作問をお願いしたい。第4問と同様に発信力を問うための設問が工夫されており、論理的思考力を問う適切な設問である。また、資料を基に構想を練り、立場を明確にして作文の概要を作成する過程は高等学校での言語活動の参考となるものである。

5 ま と め（総括的な評価）

出題の全体については、本試験と同様に分量に関して大幅な改善が見られた。また、大学教育の基礎力となる知識・技能や思考力・判断力・表現力等を評価することができるように、出題に工夫がなされている。

設問の設計については、全体を通じて問題作成方針に則しており、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する力を「リーディング」形式の問題を通して測るとともに、それらの力を問うことを通して、コミュニケーションを支える基盤となる語彙や表現、文法等に関する知識や技能についても測り、総合的な英語力を評価するテストとして適切であったと言える。

題材については、日常的な題材から科学的な題材、あるいは論争のある社会的な題材まで、幅広く取り上げられている。テキストの形式も、広告、エッセイ、オンライン記事など多岐にわたっており、様々な場面での英語力を測る工夫がなされている。また、タイプの違う物語文が2つ出題されるなど、いわゆる実用的文章に偏らない配慮がなされている。場面に応じてイギリス英語の表記が用いられるなど英語の多様性に対する配慮もある。

出題の内容や形式については、目的に応じた情報の読み取りや概要・要点の把握、事実と意見の区別、文章と図表との複合的読み取りといった従来型のものに加え、教師からのコメントに応じて作文を改稿したり複数の情報源を基に自分の考えをまとめたりする設定の出題があった。いずれの問いでも目的や場面、状況の設定は日々の授業や実際のコミュニケーションに沿っており、情報や考えを読み取ったり、理解したことをまとめたり発信したりする力を含めた総合的な英語力を評価するという視点からの工夫が見られた。また、題材や設問は高等学校における「主体的・対話的で深い学び」を志向した授業における学習過程に配慮されているため、授業改善へのメッセージ性も感じられる。受験者にとって読む目的が明確な英文であり、概要や要点、必要な情報を読み取るための様々な語彙や表現が使用されており、多様な英語に触れることの重要性が分かる。

体裁については、全体的に受験者が取り組みやすいレイアウトとなるように配慮がなされている。ただし、一部の設問では、背景知識があれば展開や解答が容易に予測できる可能性があった。これらは純粋な英語力を測っているとは言えないと思われるので、今後の適切な問題作成に期待する。

全体としては、本年度の出題はおおむね適切であったと言える。来年度以降もさらなる改善を志向しつつ、引き続き安定して適切な出題がなされることをお願いしたい。